

平成29年度 教育計画 シラバス

【 特別専攻科 学びの3つの特色 】

1 登校学習

・週2日の登校日により、専門的かつ実践的な知識と技術を習得する。

2 農業視察研修

・県内の先進農家、農業関連事業所、研究機関等の視察研修をとおして、地域農業の理解を深め、自らの経営向上を図る。

3 課題研究

・各自の農業経営等の現場において直面する課題を研究テーマとして取り上げ、課題解決学習を行う。

・自家の経営実践、巡回指導を行い、農業経営の向上を図る

新規就農者・農業を志す人を支援する社会人教育学科

岩手県立盛岡農業高等学校
特別専攻科

- 目 次 -

1	特別専攻科の概要と教育目標	1
2	特色ある特別専攻科の教育方法	2
3	教育課程	3
4	年間講義・研修・行事計画	4
5	各講義計画・シラバス	6
	必修科目	
No.1	環境農学概論 (1年)	6
No.2	農業経済概論 (1年)	7
No.3	農産物流通概論 (1年)	8
No.4	農業経営学 (2年)	9
No.5	土壌肥料学 (2年)	10
No.6	食品加工学 (I) (1年)	11
No.7	食品加工学 (II) (2年)	12
No.8	農業機械学 (I) (1年)	13
No.9	農業機械学 (II) (2年)	14
No.10	農業情報演習 (1・2年)	15
	選択科目	
No.11	園芸学 (I) (1年)	16
No.12	園芸学 (II) (2年)	17
No.13	畜産学 (I) (1年)	18
No.14	畜産学 (II) (2年)	19
No.15	植物病理学 (1年)	20
No.16	家畜繁殖学 (1年)	21
No.17	植物育種学 (2年)	22
No.18	動物育種学 (2年)	23
No.19	研修学習 (1・2年)	24
No.20	課題研究 (1・2年)	25
No.21	ホームルーム活動 (1・2年)	26

※ 平成29年度休講科目 (選択者なし) . . . 作物学 (1・2年8単位)

1 特別専攻科の概要と教育目標

教育目標

高等学校卒業後の農業後継者、新規就農者及び農業志向実践者に対し、農業の地域・技術や経営能力の向上を図り、農業及び関連産業の発展と地域社会に貢献できる担い手を育成する。



重点目標

教育目標を達成するため、次の事項に重点を置き、実践的教育活動を推進する。

- (1) 農業経営に求められる知識や新技術、関連産業との連携、環境に配慮した「持続型農業」の実践に必要な能力を習得する。
- (2) 農業経営の実態や研究ニーズに応じた個別指導により、農業実践者としてのスキルアップを図る。
- (3) 学生間の交流や研修等を通じて、農業者のネットワークづくりを推進し、地域社会のリーダーとして積極的に貢献できる農業人を育成する。

沿革

本校は、明治12年に獣医学舎として設立。昭和23年に岩手県立盛岡農業高等学校と改称され、昭和39年には文部省（現文部科学省）から自営者養成農業高等学校拡充整備校の指定を受け、農業教育と農業自営者養成を行い、現在に至っています。昭和45年10月20日、文部省通知、農業特別専攻科設置要項に基づき、全国に9つの農業特別専攻科が設置され、本校の特別専攻科もその一つで、昭和46年度から入学生募集を開始し、平成28年度末現在、404名の修了生を輩出しています。

学科・定員

学科名	特別専攻科（農業科）
修業年限	2か年
定員	1学年20名（全体40名）

入学資格

- ・高等学校卒業見込みの者
- ・高等学校または、これに準ずる学校を卒業した者
- ・高等学校を卒業した者と同等程度の学力があると認められ、現に農業に従事している者または従事しようとしている者

2 特色ある特別専攻科の教育方法

(1) 講義

ア 講義日

前期(4月~9月)、後期(10月~3月)ともに週2日の登校を受講します。

平成29年度は、火曜日と木曜日を設定し、全日受講します。

イ 講義内容

必修科目に加えて、選択科目は個々の経営内容に応じた科目を履修し、講義と実験実習等を通して、専門的かつ実践的な知識と技術を習得します。

(2) 課題研究

ア 研究指導

農業や地域の状況を把握し、実践的農業技術を習得し、自家農業経営における課題解決を図る。また、資格取得等に自発的、計画的に取り組み、経営者としての資質を高めます。

研究内容は、各自の農業経営等の現場において直面する課題を研究テーマとして取り上げ、課題解決学習を行います。

イ 巡回指導

担当教員が就農現場を随時巡回し、学生の実情に合わせた指導助言を行います。

ウ 資格取得指導

将来の就農に備えて必要となる各種資格取得のための学習指導もおこないます。家畜人工授精師免許取得への取り組みで実績があり、受精卵移植師、削蹄師、家畜商などの畜産関係資格をはじめ、危険物取扱者、ボイラー技士、ガス・アーク溶接、食品衛生責任者、大型特殊自動車、けん引などの一般資格、各種特別教育講習等による技能講習修了者資格を支援する。

家畜人工授精師 : H28 2名 受精卵移植師 : H27 1名

2級認定牛削蹄師 : H27 1名

(3) 研修会

ア 視察研修(月1回・県内)

県内の先進農家、農業関連事業所、研究機関等の視察研修を行い、地域農業の理解を深めながら、自らの経営向上を図ります。

イ 特別講義・講演会・講習会・農業青年のつどい

農業各分野の学識経験者、専門技術者、経営者を社会人講師として招聘し、講演会や技術講習会によって専門的な知識や技術の習得を図ります。

ウ 研修旅行(年1回、県外)

県外の農業現場視察と学生間の交流を目的に行い、広い見識を持った経営感覚の育成を図ります。

エ 国内農業研修・海外農業研修

希望者は、先進農家等での実習研修を通して、実践的な経営知識と専門技術等を習得し、農業自営者としての資質向上を図ります。また、海外視察やファームステイも支援を行います。

3 教育課程

平成29年度 特別専攻科教育課程

教科科目	科目	単位数	1年	2年		
農業	必修科目	環境農学概論	1	1		
		農業経済概論	1	1		
		農産物流通概論	1	1		
		農業経営学	2		2	
		土壌肥料学	2		2	
		食品加工学	2	1	1	
		農業機械学	2	1	1	
		農業情報演習	2	1	1	
	選択科目	作物学	} 8	} 4	} 4	1科目選択
		園芸学				
		畜産学				
		植物病理学	} 2	} 2		1科目選択
		家畜繁殖学				
		植物育種学	} 1		} 1	1科目選択
動物育種学						
研修学習		6	3	3		
課題研究		28	14	14		
ホームルーム活動		2	1	1		
計		60	30	30		

※1 課題研究は、自宅での営農実践および研究活動とする。

通常の講義時程（日課表）

時 限	時 程
SHR	9:20 ~ 9:30
1時限	9:35 ~ 11:05
2時限	11:15 ~ 12:45
昼 食	12:45 ~ 13:30
3時限	13:30 ~ 15:00



4 年間講義・研修・行事計画

【前期 履修期間 4月1日～9月30日】 ※ 講義日は、火・木曜日の週2日

日	4月		5月		6月		7月		8月		9月	
1	土		月		木	前木⑥	土		火		金	巡回指導
2	日		火	前火③	金	巡回指導	日		水		土	
3	月		水		土		月		木		日	
4	火		木		日		火	前火⑪	金		月	
5	水		金		月		水		土		火	前火⑮
6	木	入学式	土		火	前火⑧	木	前木⑪	日		水	研修旅行
7	金		日		水		金	巡回指導	月		木	同上
8	土		月		木	前木⑦	土		火		金	同上
9	日		火	前火④	金	巡回指導	日		水		土	
10	月		水		土		月		木		日	
11	火	前火①	木	前木④	日		火	前火⑫	金		月	
12	水		金	巡回指導	月		水		土		火	
13	木	前木①	土		火	前火⑨	木	前木⑫	日		水	
14	金		日		水		金	巡回指導	月		木	
15	土	巡回指導	月		木	前木⑧	土		火		金	巡回指導
16	日		火	前火⑤	金	巡回指導	日		水		土	
17	月		水		土		月		木	前木⑬	日	
18	火	前火②	木	前木⑤	日		火	前火⑬	金		月	
19	水		金	巡回指導	月		水		土		火	
20	木	前木②	土		火	前火⑩	木	研修日④	日		水	
21	金	巡回指導	日		水		金	巡回指導	月		木	
22	土		月		木	前木⑨	土		火	前火⑭	金	巡回指導
23	日		火	前火⑥	金	巡回指導	日		水		土	
24	月		水		土		月		木	前木⑭	日	
25	火	研修日①	木	研修日②	日		火		金		月	
26	水		金	巡回指導	月		水		土		火	
27	木	前木③	土		火	研修日③	木		日		水	
28	金		日		水		金		月		木	
29	土		月		木	前木⑩	土		火	研修日⑤	金	巡回指導
30	日		火	前火⑦	金	巡回指導	日		水		土	
31	-		水		-		月		木	前木⑮	-	
登校日	講義日	5	講義日	7	講義日	8	講義日	5	講義日	4	講義日	1
	研修日	1	研修日	3								
	合計	6	合計	8	合計	9	合計	6	合計	5	合計	4

【後期 履修期間：10月1日～3月31日】

日	10月		11月		12月		1月		2月		3月	
1	日		水		金	巡回指導	月		木	後木⑭	木	修了式
2	月		木	後木⑤	土		火		金	巡回指導	金	
3	火	後火①	金		日		水		土		土	
4	水		土		月		木		日		日	
5	木	後木①	日		火	後火⑧	金		月		月	
6	金	巡回指導	月		水		土		火	後火⑭	火	
7	土		火	後火④	木	後木⑧	日		水		水	
8	日		水		金	巡回指導	月		木	後木⑮	木	
9	月		木	後木⑥	土		火	研修日⑩	金		金	
10	火	後火②	金	巡回指導	日		水		土		土	
11	水		土		月		木	後木⑪	日		日	
12	木	後木②	日		火	研修日⑨	金		月		月	
13	金	巡回指導	月		水		土		火	後火⑮	火	
14	土		火	後火⑤	木	後木⑨	日		水		水	
15	日		水		金		月		木		木	
16	月		木	研修日⑧	土		火	後火⑪	金		金	
17	火	研修日⑦	金	巡回指導	日		水		土		土	
18	水		土		月		木	後木⑫	日		日	
19	木	後木③	日		火	後火⑨	金	巡回指導	月		月	
20	金	巡回指導	月		水		土		火		火	
21	土		火	後火⑥	木		日		水		水	
22	日		水		金	後木⑩	月		木		木	
23	月		木		土		火	後火⑫	金		金	
24	火	後火③	金	巡回指導	日		水		土		土	
25	水		土		月		木	後木⑬	日		日	
26	木		日		火	後火⑩	金	巡回指導	月		月	
27	金	後木④	月		水		土		火		火	
28	土	盛農祭	火	後火⑦	木		日		水		水	
29	日	盛農祭	水		金		月		-		木	
30	月		木	後木⑦	土		火	後火⑬	-		金	
31	火		-		日		水		-		土	
登校日	講義日	7	講義日	7	講義日	6	講義日	6	講義日	4	年間講義日	60
	研修日	1	研修日	1	研修日	1	研修日	1	研修日	0	年間研修日	12
	合計	8	合計	8	合計	7	合計	7	合計	4	年間合計	72

5 各講義計画（シラバス）

科目名	No.1 環境農学概論	
単位数	1単位	
担当	丹野（非常勤講師）	
対象と履修期間	特別専攻科1年 後期 全15回（90分/回）	
場所	第1講義室	
目標	農業経営を行なう上で必要不可欠な環境保全型農業の推進を図ることを理解させ、農業経営の向上と発展に資することを目的とする。	
内容	<p>地球温暖化、オゾン層の破壊など地球環境問題の原因や影響、対策の方向を紹介し、農林業が環境保全・創造に果している役割や課題、今後の方向を示し、環境保全型農業の推進に努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○私たちの暮らしと環境 ○地球規模の環境問題（地球温暖化の影響） ○農業の営みと環境問題 ○環境の保全と創造 ○農林業の多面的機能の役割 ○環境保全型農業の推進 ○C00P21 と対応 	
教材と参考図書	<ul style="list-style-type: none"> ○環境と農業（農山漁村文化協会） ○DVD（地球温暖化の影響と対応策） ○関係資料配布 	
指導方法	○講義	
評価方法	○関心、思考、技能、知識を総合的に評価する。	

科目名	No.2 農業経済概論	
単位数	1単位	
担当	高橋（非常勤講師）	
対象と履修期間	特別専攻科1年 後期 全15回（90分／回）	
場所	第1講義室	
目標	農業経済の基本を学び、最近話題となっている農政事情を取り上げながら、現場目線で理解する。また、これからの農業経済の動きを読み取り、自らの農業経営の向上に生かす力を修得する。	
内容	<ul style="list-style-type: none"> ○はじめに ○農業と他産業 ○日本農業の姿 ○農政の展開と農業問題 ○日本農業の弱点 ○TPPと日本農業 ○攻めの農業 ○6次産業化 ○最新の農政事情 ○まとめ 	
教材と参考図書	<ul style="list-style-type: none"> ○「農業問題—TPP後農政はこう変わる」 本間正義著、筑摩書房 ○「現代農業のマネジメント」 木村伸男著、日本経済評論社 ○「農業経済学」 荏開津典生著、岩波書店 ○関係資料配布 	
指導方法	○講義	
評価方法	○関心、思考、技能、知識を総合的に評価する。	

科目名	No.3 農産物流通概論	
単位数	1単位	
担当	村川	
対象と履修期間	特別専攻科1年 後期 全15回(90分/回)	
場所	第1講義室	
目標	農産物流通市場は、食料農産物市場と原料農産物市場に大別される。それぞれの市場が持つ機能と役割の理解とともに、農産物流通の今日的な問題点について学習する。農産物市場の仕組みや価格形成の動き、また食の安全や環境問題を踏まえた農産物流通の将来について理解を深める。	
内容	<ul style="list-style-type: none"> ○流通の定義、流通の役割 ○食品流通の仕組み ○流通機能と流通機構 ○卸売市場 ○直売型の農産物流通 ○青果物の流通 ○畜産物の流通 ○農産物の輸出入の仕組み ○食品の安全性と消費者 ○食品流通と環境問題 	
教材と参考図書	<ul style="list-style-type: none"> ○新版 食料・農産物流通論(筑波書房) ○食品流通(実教出版) ○関係資料配付 	
指導方法	○講義	
評価方法	○関心、思考、技能、知識を総合的に評価する。	

科目名	No.4 農業経営学	
単位数	2単位	
担当	丹野（非常勤講師）	
対象と履修期間	特別専攻科1年 前期 全30回（90分/回）	
場所	第2講義室・情報処理室	
目標	農業経営の設計と管理に必要な知識と技術を習得し、経営管理の改善を図る能力と態度を身につけ、効率的かつ安定的な農業経営を図ることを目標とする。	
内容	<p>学生諸君の関心度、理解度をみながら進めていくが、以下の方向を基本に進めたい。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 農業経営の主体（経営体）と目標 (2) 農業生産と経営の要素（3要素） (3) 集団営農組織と農業法人化 <ol style="list-style-type: none"> ① 任意組織（集落営農組織）の設立 ② 株式会社の設立 ③ 農事組合法人の設立 (4) 農業生産・経営・流通情報 (5) 農産物流通とマーケティング (6) 農業経営の診断と設計 (7) 農業の基本法（農地法、農振法、農協法） (8) 農業者とJA組織 (9) 農業経営の維持継続のための相続問題（相続税） 	
教材と参考図書	<ol style="list-style-type: none"> ① 農業経営概論（実教出版株式会社発行）大泉一貫・津谷好人・木下幸雄著 ② 農地法、農業生産法人手続きマニュアル（全国農業会議所発行） ③ 認定農業者制度（農林水産省発行） ④ 農業施策、補助事業・制度の要覧（岩手県発行） ⑤ 集落営農の推進の手引き（国・岩手県作成） ⑥ 「私たちとJA」（全国農業協同組合中央会発行） ⑦ 相続税読本（全国農業協同組合中央会発行） <p>その他：プリント</p>	
指導方法	○講義	
評価方法	○関心、思考、技能、知識を総合的に評価する。	

科目名	N0.5 土壌肥料学	
単位数	2単位	
担当	櫻井・丹野（非常勤講師）	
対象と履修期間	特別専攻科2年 前後期 全30回（90分／回）	
場所	第2講義室、第2実験室	
目標	農業経営の基本である「作物の安定生産」と「生産コストの低減」を実践する上で必要な、作物栄養・土壌・肥料に関する知識を取得する。	
内容	<ul style="list-style-type: none"> ○作物の必須元素と働き ○土壌の生成過程と三つの性質 ○土壌の酸性化の原因と対策 ○県内に分布する耕地土壌の特徴 ○肥料情勢・肥料関連法律の概要 ○肥料及び土壌改良資材の種類と特徴 ○有機物の使い方 ○土壌診断の意義 ○土壌養分の実態に対応した施肥法 	
教材と参考図書	<ul style="list-style-type: none"> ○JAグループ営農相談員向けテキスト<肥料・土壌編> （全国農業協同組合中央会・全国農業協同組合連合会製作） ○関係資料配付 	
指導方法	<ul style="list-style-type: none"> ○講義 ○土壌実験 	
評価方法	○関心、思考、技能、知識を総合的に評価する。	

科目名	N0.6 食品加工学（I）	
単位数	1単位	
担当	村川	
対象と履修期間	特別専攻科1年 後期 全15回（90分/回）	
場所	第1実験室	
目標	<p>農業や水産業などの第1次産業が食品加工・流通販売にも業務展開する経営の多角化、つまり6次産業化がすすんでいる。農業振興と地域の活性化を背景にした食品製造について考察し、基本的な加工技術を習得する。</p>	
内容	<ul style="list-style-type: none"> ○食品製造の意義 <ul style="list-style-type: none"> ・岩手の食品加工 ・農業者の6次化 ○食品衛生 <ul style="list-style-type: none"> ・食品衛生法 ・営業許可、食品衛生責任者 ・保健所 ○農産物の加工 実習「ジャム」、「麺類」、「パン」等 ○畜産物の加工 実習「アイスクリーム」等 ○食品の包装と表示 <ul style="list-style-type: none"> ・容器包装 ・加工食品の表示制度 ○食品加工品のいろいろ 	
教材と参考図書	<ul style="list-style-type: none"> ○食品製造（実教出版） ○食品化学（実教出版） ○関係資料配付 	
指導方法	<ul style="list-style-type: none"> ○講義 ○加工実習および実験 	
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ○関心、思考、技能、知識を総合的に評価する。 	

科目名	No.7 食品加工学（Ⅱ）	
単位数	1単位	
担当	村川	
対象と履修期間	特別専攻科2年 後期 全15回（90分/回）	
場所	第1実験室	
目標	1年次の講義内容を発展させ、農業振興と地域の活性化を背景にした食品製造を考察し、営業許可から加工施設と設備の設置、販売計画（委託、受託）等について理解を深める。また、並行して農産加工実習によって物づくりの基本を学ぶ。	
内容	<ul style="list-style-type: none"> ○食品営業について <ul style="list-style-type: none"> ・心構え・営業許可が必要な業種・営業許可不要な食品 ○食品営業許可について <ul style="list-style-type: none"> ・営業許可を取得する手順・各業種共通基準・業種別基準 ○食品表示について <ul style="list-style-type: none"> ・表示の基本・表示作成の手順、表示方法・関係法令・問合せ先 ○「食品衛生責任者」資格の取得 <ul style="list-style-type: none"> ・食品加工の施設、設備の準備、購入について ○地域の特産物を利用した食品加工の重要性 ○農産物の加工 実習「羊羹（ようかん）」、「ジュース」等 ○畜産物の加工 実習「チーズ」、「ソーセージ」等 	
教材と参考図書	<ul style="list-style-type: none"> ○農産加工所の開設経営・商品開発（農文協） ○加工特産品のつくり方、売り方（出版文化社） 	
指導方法	<ul style="list-style-type: none"> ○講義 ○加工実習および実験 	
評価方法	○関心、思考、技能、知識を総合的に評価する。	

科目名	No.8 農業機械学（I）	
単位数	1単位	
担当	村川	
対象と履修期間	特別専攻科1年 前期 全15回（90分/回）	
場所	第1講義室・圃場・農業機械実習室	
目標	トラクタ及び各種作業機等を取扱う知識・技能を身につけさせるために、その構造・点検整備・事故防止等について講義・実習を通して習得させる。また、各種農業機械及び施設等の修理補修や工作に必要なアーク溶接やガス溶接の技術と安全な使用方法についても講義・実習を通して習得させる。	
内容	<ul style="list-style-type: none"> ○農業機械の利用と現状 ○農業機械と安全 ○歩行用トラクタの基本運転と操作（実習） <ul style="list-style-type: none"> ・構造 ・各作業機の取り付け ○常用トラクタの基本運転と操作（実習） <ul style="list-style-type: none"> ・構造 ・基本走行 ・作業機の着脱 ・ロータリ耕 ・牽引 ○その他作業機の取り扱い <ul style="list-style-type: none"> ・刈り払い機 ・動力散布機 ○溶接作業の基本操作 <ul style="list-style-type: none"> ・アーク溶接 ・ガス溶接 	
教材と参考図書	<ul style="list-style-type: none"> ○農業機械（農文協） ○農業機械士技能検定試験テキスト（全国農業機械化研修連絡協議会） 	
指導方法	<ul style="list-style-type: none"> ○講義 ○実習 	
評価方法	○関心、思考、技能、知識を総合的に評価する。	

科目名	No.9 農業機械学(Ⅱ)	
単位数	1単位	
担当	村川	
対象と履修期間	特別専攻科2年 後期 全15回(90分/回)	
場所	第2講義室、圃場、農業機械実習室	
目標	農業機械士技能検定のために必要な知識・技術を身につけさせるために、農業機械の構造・運転操作・点検整備・安全運転操作・事故防止等について演習・講義・実習等を通して習得させる。	
内容	<ul style="list-style-type: none"> ○農作業の事故と健康障害 ○農業機械の安全作業、点検整備 ○各作業機の概要 <ul style="list-style-type: none"> ・ 耕うん、整地用機械 ・ 育成管理用機械 ・ 稲作用収穫、調整機械 ・ 畑作用収穫、調整機械 ・ 飼料作用収穫、調整機械 ・ 運搬用機械 ○農業機械の効率的利用 <ul style="list-style-type: none"> ・ 作業能率と作業負担面積 ○農業機械化体系、機械の選択 	
教材と参考図書	<ul style="list-style-type: none"> ○農業機械(農文協) ○農業機械士技能検定試験テキスト(全国農業機械化研修連絡協議会) 	
指導方法	<ul style="list-style-type: none"> ○講義 ○操作、運転実習 	
評価方法	○関心、思考、技能、知識を総合的に評価する。	

科目名	No.10 農業情報演習	
単位数	1単位 ※1・2年合同受講	
担当	村川	
対象と履修期間	特別専攻科1年 後期 全15回(90分/回)	
場所	情報処理室	
目標	表計算ソフトを活用して表計算やデータベースの基礎的な知識と技術を身につけさせるために問題演習を中心に行い、農業経営で必要とされる経営管理や培飼育計画作成等に活用できる能力を向上させる。	
内容	<ul style="list-style-type: none"> ○ OSの利用 「Windows10」概要 ○ アプリケーションソフトの利用 <ul style="list-style-type: none"> ・ 「Word 2013」によるビジネス文書の作成 ・ 「Excel2013」による関数理解。 経営資料の作成(表計算、グラフ作成) ・ 「Power point」によるプレゼン資料の作成 ○ 年度末「課題研究発表」の資料作成 	
教材と参考図書	○関係資料の配付	
指導方法	<ul style="list-style-type: none"> ○講義 ○コンピュータ演習 	
評価方法	○関心、思考、技能、知識を総合的に評価する。	

科目名	No.11 園芸学(I)	
単位数	4単位	
担当	白椋	
対象と履修期間	特別専攻科1年 前後期 全60回(90分/回)	
場所	第3講義室、圃場	
目標	野菜づくりの基本を学び、年間の作業内容や方法、効率の良いポイントを体得し、プロ農業者としての意識向上を図る。	
内容	<ul style="list-style-type: none"> ○作付計画 <ul style="list-style-type: none"> ・圃場環境の確認・経営と作目選択・購入資材と収支計画 ○土づくり <ul style="list-style-type: none"> ・土の性質・堆肥・施肥計画(元肥、追肥)・道具 ○栽培の基本 <ul style="list-style-type: none"> ・播種・育苗・定植・農薬散布⑤防虫・防鳥・坊獣対策 ・雑草対策　・暑さと台風対策　・防寒対策　・栽培の工夫 ○収穫 <ul style="list-style-type: none"> ・収穫方法・調整方法・市場出荷方法・市場調査・収支の確認 ○来シーズンへ向けて <ul style="list-style-type: none"> ・畑のかたづけ・農具と農機具の手入れ 	
教材と参考図書	<ul style="list-style-type: none"> ○野菜づくり畑の教科書(家の光協会) ○関係資料配布 	
指導方法	<ul style="list-style-type: none"> ○講義 ○圃場実習 	
評価方法	○関心、思考、技能、知識を総合的に評価する。	

科目名	No.12 園芸学(Ⅱ)	
単位数	4単位	
担当	白椋	
対象と履修期間	特別専攻科2年 前後期 全30回(90分/回)	
場所	第1講義室、圃場	
目標	園芸生産に必要な基本的な技術や事柄について理解する。 一般的な園芸生産技術について、作物の特性と技術の関連性を深く考え、品質の改善と付加価値の向上について理解する。	
内容	<p>○講義：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・野菜の種類と分類 ・野菜の生態と発育 ・あたりし生産技術と生産施設 ・生産環境管理技術 ・品質の改善 ・出荷および加工保蔵に関する技術 <p>○実習：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・野菜栽培(露地・雨よけ栽培)の栽培管理 ・栽培様式の違いによる生育比較 <p>※日本農業技術検定2級、取得の知識・技術の習得を目指す。</p>	
教材と参考図書	<p>○野菜園芸学(文永堂出版)</p> <p>○日本農業技術検定テキスト</p> <p>○現代農業(農文協)、農業新聞等</p>	
指導方法	<p>○講義</p> <p>○圃場実習</p>	
評価方法	○関心、思考、技能、知識を総合的に評価する。	

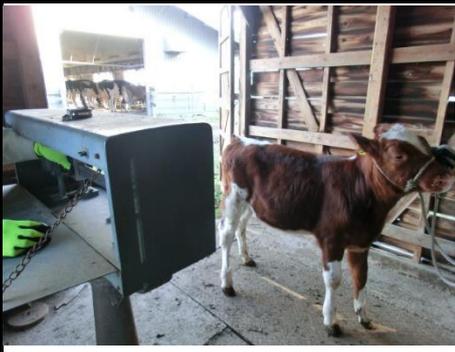
科目名	No.13 畜産学 (I)	
単位数	4単位	
担当	工藤	
対象と履修期間	特別専攻科1年 前後期 全60回 (90分/回)	
場所	第1講義室	
目標	<p>畜産の基本的知識と技術を習得し、畜産技術者及び経営者としての資質を高める。</p> <p>現代畜産の現状と課題を理解し、従来の生産効率主体の畜産から、これらを考慮して、リスク回避の畜産経営を習得する。</p>	
内容	<ul style="list-style-type: none"> ○畜産概論：家畜繁殖学、家畜育種学、家畜栄養・飼料学) ○経営学：販売と生産費、国の畜産対策大綱、畜産基本方針) ○畜産を取巻く情勢 (国内・世界情勢、TPP等制度の仕組みと動向) ○家畜の生産物と利用 <ul style="list-style-type: none"> ・乳の生産と利用・肉の生産と利用 ○栄養と飼料 <ul style="list-style-type: none"> ・栄養，栄養素，栄養学 ・栄養素の化学 ・採食，消化，吸収 ・栄養素の代謝 ・栄養素要求量と飼養標準 ・飼料生産と給与 ○家畜の品種と改良，増殖 <ul style="list-style-type: none"> ・遺伝と育種 ・繁殖 ・家畜の改良技術 (人工授精) 	
教材と参考図書	<ul style="list-style-type: none"> ○並河澄他『農学基礎セミナー 家畜飼育の基礎』農文協 ○日本家畜人工授精師協会『家畜人工授精講習テキスト・人工授精師編』・鈴木善祐他『新家畜繁殖学』朝倉書店 	
指導方法	<ul style="list-style-type: none"> ○講義 ○実習 	
評価方法	○関心、思考、技能、知識を総合的に評価する。	

科目名	No.14 畜産学(Ⅱ)	
単位数	4単位	
担当	工藤	
対象と履修期間	特別専攻科2年 前後期 全60回(90分/回)	
場所	第1講義室	
目標	<p>畜産の基本的知識と技術を習得し、畜産技術者及び経営者としての資質を高める。</p> <p>受精卵移植師の資格合格を目指し、講習に留意した講義を行う。</p>	
内容	<ul style="list-style-type: none"> ○胚移植概論 <ul style="list-style-type: none"> ・胚移植技術の概要 ○胚の生理および形態 <ul style="list-style-type: none"> ・細胞の構造、生理および病理 ○胚の採取と処理 <ul style="list-style-type: none"> ・ドナーの検査 ○胚の移植 <ul style="list-style-type: none"> ・胚移植の概略 ○対外胚の生産 <ul style="list-style-type: none"> ・家畜対外胚移植による疾病の伝播防止 ○体内胚の処理 <ul style="list-style-type: none"> ・検査、処理工具の取り扱い ○胚移植 <ul style="list-style-type: none"> ・レシピエントの選定 ○体外胚の生産 <ul style="list-style-type: none"> ・体外受精の実施 	
教材と参考図書	○日本家畜人工授精師協会『家畜人工授精講習テキスト・家畜体内受精卵・家畜体外受精卵移植編』	
指導方法	○講義 ○実習	
評価方法	○関心、思考、技能、知識を総合的に評価する。	

科目名	No.15 植物病理学	
単位数	2単位	
担当	四戸	
対象と履修期間	特別専攻科1年 前期 全15回(90分/回)	
場所	第3講義室、圃場	
目標	農作物の重要な栽培管理に病虫害防除がある。園芸作物に発生し、被害を及ぼす病害や虫害の基本的な知識とその防除技術の習得を目標とする。	
内容	<ul style="list-style-type: none"> ○植物病理学 <ul style="list-style-type: none"> ・病虫害の種類と生態 ・病虫害の発生条件と予察 ○病虫害診断 <ul style="list-style-type: none"> ・稲、麦に発生する病虫害 ・野菜に発生する病虫害 ・花き類に発生する病虫害 ○防除方法 <ul style="list-style-type: none"> ・殺菌剤・殺虫剤の特性と使用方法 ・薬剤散布技術 	
教材と参考図書	<ul style="list-style-type: none"> ○新編 植物病理学 (養賢堂) ○いわて農作物病虫害図鑑 (岩手県植物防疫協会) ○病原菌図鑑、専門書からの編さん 	
指導方法	<ul style="list-style-type: none"> ○講義 ○圃場実習 	
評価方法	○関心、思考、技能、知識を総合的に評価する。	

科目名	No.16 家畜繁殖学	
単位数	2単位	
担当	工藤	
対象と履修期間	特別専攻科1年 前期 全15回(90分/回)	
場所	第1講義室	
目標	<p>家畜の繁殖と交配および育種・改良等について基本理論を学び、家畜の登録と審査、各種検定成績を活用しての繁殖管理を理解する。また、家畜人工授精師講習に留意した指導をおこなう。</p>	
内容	<ul style="list-style-type: none"> ○家畜の繁殖 <ul style="list-style-type: none"> ・家畜繁殖の特徴 ・家畜の生殖器 ・繁殖とホルモン ・性成熟と発情周期 ・精液と精子 ・受精と胚の着床 ・妊娠と分娩 ・繁殖障害 ・人工授精 ○家畜の育種 <ul style="list-style-type: none"> ・家畜の育種とは ・家畜の改良目標 ・選抜による家畜育種 ・交配法 ・家畜育種に関する分析 ・家畜育種の今後の課題 ○乳牛の改良 ○肉牛の改良 ○牛・受精卵移植技術 <ul style="list-style-type: none"> ・受精卵移植技術とは ・受精卵移植技術の主な段階 過剰排卵処理、発情周期同期化、卵の回収(採卵)、回収卵の検査・取り扱い、受精卵の移植、受精卵の凍結保存 ・受精卵移植の利点 ○畜産におけるバイオテクノロジーの活用 <ul style="list-style-type: none"> ・体外受精 ・性支配 ・核移植とクローン家畜 ○畜産バイオテクノロジーの躍進と展望 	
教材と参考図書	<ul style="list-style-type: none"> ○日本家畜人工授精師協会『家畜人工授精講習テキスト・人工授精師編』 ○鈴木善祐他『新家畜繁殖学』朝倉書店 	
指導方法	<ul style="list-style-type: none"> ○講義 ○各指導事項について概説し、自己テーマを設定してレポートを作成する。参考図書、関連情報誌等通読して自己学習に取り組むこと。 	
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ○関心、思考、技能、知識を総合的に評価する。 	

科目名	No.17 植物育種学	
単位数	1単位	
担当	佐々木（非常勤講師）	
対象と 履修期間	特別専攻科1年 前期 全15回（90分/回）	
場 所	第2講義室	
目 標	植物育種に関連する基礎知識、各種育種法、品種育成方法などを学習し、併せて実際の育種事例を学ぶ。	
内 容	<ul style="list-style-type: none"> ○植物育種と育種学について ○植物育種に関連する基礎知識について <ul style="list-style-type: none"> ・遺伝子の仕組みとはたらき、バイオテクノロジーの基礎など ○各種育種法について <ul style="list-style-type: none"> ・自殖性植物の育種法、他殖性植物の育種法、栄養繁殖性植物の育種法、突然変異による育種法、バイオテクノロジーによる育種法など ○育種目標に関する技術について <ul style="list-style-type: none"> ・多収性、耐冷性、耐病性、品質食味など ○育種の事例について <ul style="list-style-type: none"> ・水稻品種「どんぴしゃり」の育種、りんご品種「きおう」、りんどうの育種など 	
教材と 参考図書	<ul style="list-style-type: none"> ○植物育種学（文永堂出版） ○関係資料配付 	
指導方法	○講義	
評価方法	○関心、思考、技能、知識を総合的に評価する。	

科目名	No.18 動物育種学	
単位数	1単位	
担当	小松（非常勤講師）	
対象と履修期間	特別専攻科1年 前期 全15回（90分/回）	
場所	第1講義室	
目標	<p>最近の畜産業を取巻く状況は生産物需要の停滞のほかT P P交渉等厳しい経営を強いられてきているが、国内生産基盤の強化拡大することが重要である。岩手は育種改良で畜産先進県としてきた経緯がある。</p> <p>1 育種学で資質に優れ、生産効率の高い技術の習得を目指す。</p> <p>2 さらに意欲と経営能力に優れた担い手の育成を目指す。</p> <p>家畜育種技術、経営能力とグローバルな見地に立ち先見性を身につけ、岩手の立地条件を活用した安心・安全な畜産物の生産と安定経営が継続できる担い手を育てる。</p>	
内容	<p>畜産学の中で最も基礎となる家畜育種学を中核に関連分野を含めた内容と今年度の特別専攻科の学生の就農予定畜種を意識した授業体制を併せて進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 家畜育種改良の習得…畜産の基本となる分野であるので、そのスキルアップの習得として家畜育種学を重点に関連の家畜飼養学、家畜繁殖学、飼料学、草地・家畜管理学等 ・ 優れた経営感覚の醸成と先見性を磨くために再生産のできる経営学、農政の畜産基本方針、融資及び助成制度等及び畜産を取巻く情勢（国内・世界情勢、T P P等制度の仕組みと動向、放射線の実態） 	
教材と参考図書	<p>○家畜改良増殖目標等（国、県等の各種施策、目標）</p> <p>○プリント（ネット、新聞、本から編さんした資料）</p>	
指導方法	<p>○講義（教壇からの講義、ゼミナール方式：資料の音読、質疑応答形式）</p> <p>各人の経営形態や質問・要望に沿った指導をおこなう また、各自の理解度に応じた個別指導もおこなう</p>	
評価方法	<p>○関心、思考、技能、知識を総合的に評価する。</p>	

科目名	No.19 研修学習	
単位数	6単位（3単位×2年）	
担当	特別専攻科教員	
対象と履修期間	特別専攻科全学年 前後期	
場所	視察・県外研修旅行、講演等	
目標	各種研修の機会を大切にし、幅広い視野を持った経営能力の向上に努める。	
内容	<p>○月1回、県内の先進農家、農業関連事業所、試験研究機関等を視察研修する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・視察研修：年10回、講義日に設定する。 <p>○年1回、県外視察を県内と同様に実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修旅行：2泊3日 <p>※ 上記は、農家等の都合により変更することがあります。</p>	
教材と参考図書	<p>○視察用テキストを作成する。</p> <p>○研修先に関わる資料を配布する。</p>	
指導方法	<p>○研修先の聞き取り調査など。</p> <p>○研修後は、報告レポートを作成、提出する。</p>	
評価方法	○関心、思考、技能、知識を総合的に評価する。	

科目名	No.20 課題研究	
単位数	28単位(14単位×2年)	
担当	特別専攻科教員	
対象と履修期間	特別専攻科全員 前後期	
場所	自宅での営農実践が中心	
目標	<p>○自家経営の実践支援：巡回指導 年度初めに研究テーマ設定し、調査・データ収集などの諸段階を経て、報告書を作成する。また、年度末研究発表会で報告し、情報交換をすることで経営改善の糸口を探求する。</p> <p>○農家研修の支援： 新規就農を目的に、農家や生産法人等で計画的に研修を行い農業技術の習得や経営について研修することにより、就農計画を立てる。</p> <p>○資格取得の推進： 農業や関連分野の資格取得により、経営者としての自己の資質を高める。</p>	
内容	<p>○ホームプロジェクト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究テーマ決定 ・調査および実験 ・報告書作成 ・報告書提出 	<p>○職業資格の取得</p> <ul style="list-style-type: none"> ・取得資格の決定 ・学習計画と実践 ・受験 ・受験報告提出
	<p>○農家等研修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目的・研修計画 ・研修先確保 ・研修の実施 ・研修報告提出 	<p>◎巡回指導の実施 自宅実践(営農)を支援するため、定期的に教職員が経営現場での巡回指導をおこない助言する。</p>
教材と参考図書	○必要に応じて参考図書の紹介や関連資料を配布する。	
指導方法	○自家農場等における研究活動や自発的な学習を巡回指導によって助言指導をおこなう。	
評価方法	○関心、思考、技能、知識を総合的に評価する。	

科目名	No.21 ホームルーム活動	
単位数	2単位(1単位×2年)	
担当	特別専攻科職員	
対象と履修期間	特別専攻科全学年 前後期	
場所	第1・2講義室	
目標	学校行事への参加や学生の自主的活動をとおして、学生間の親睦を 図るとともに、仲間作りや組織の経営について学ぶ。	
内容	○年間行事 4月 入学式、学生交流会 5月 巡回指導(翌年2月まで) 6月 県内見学研修 7月 県内畜産共進会見学 8月 県外研修計画 9月 県外研修実施、家畜受精卵移植講習会 10月 盛農祭、牛削蹄師講習会 11月 家畜人工授精師講習会 12月 家畜商講習会 1月 県農業青年の集い参加 2月 課題研究学習発表会、専攻科入試、合格発表 3月 卒業式・修了式	
教材と参考図書	○参考資料を配布する。	
指導方法	○基本は、自主活動。 ・日時等の確認を行い、積極的に参加を指導する。	
評価方法	○実施しない	